

(道徳科)

**『よりよく生きようとする児童の育成』
～特別の教科 道徳の指導法の工夫を通して～**

大阪市立清江小学校 脇田ゆり 坂本陽子 増村康子 小谷理恵

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「豊かな心で元気な子、なかまを大切にする子を育てる」として、日々の教育活動に取り組んでいる。ここ数年の学校評価アンケートや全国学力・学習状況調査では、本校の児童は自尊感情が低いという実態がある。そこで、他者との関わりを大切にしながら、互いに思いやり高め合う中で、より豊かな心を育てていく必要性があると考えた。

加えて、本年度からの「特別の教科 道徳」の全面実施に向け、教員の中にも分からないこと、不安なことが多いため、研究を通して道徳教育の充実・改善を図っていきたいと考え、研究主題を「『よりよく生きようとする児童の育成』～特別の教科 道徳の指導法の工夫を通して～」とし、道徳の時間を要として研究を進めていくこととした。

2. 研究の内容

研究の1年目である本年度は、新学習指導要領の目標「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」をふまえながら、道徳の授業で何を大切にすべきなのか、どのように授業づくりをしていくと子どもの学びにつながるのか、といった基本となることを考えていくこととし、研究主題にせまるため、研究の視点として以下の2つを掲げた。

(1) 学習指導過程（導入・展開・終末）の工夫

①導入の工夫

導入では、価値への導入と資料への導入を意識し工夫を重ねていく。これまでの生活経験を思い出させたり、事前に行っておいたアンケートを利用したり、ある言葉から思い浮かぶ言葉を話し合ったりするなどの工夫が考えられる。

②展開の工夫

展開では、登場人物の心情の読み取りに終始してしまうことの無いよう、他者と伝え合う活動を通して児童一人一人が物事を多角的・多面的に考え、自己を見つめ、生き方について考えを深めていく力を育成していけるよう工夫を重ねていく。

③終末の工夫

終末では、学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、今後への思いや課題について考えたりできるように工夫を重ねていく。ただし、価値の押しつけや、行為の指導にならないように留意し、余韻を残して終わる。

(2) ねらいにせまるための発問の工夫

道徳的価値の意義及びその大切さを、授業の発問を通して理解できるようにし、自分とのかかわりにおいて道徳的価値をとらえられることや、子どもが今後様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳性を高めることを目指したい。

また、道徳的価値の理解を図るために、これまでの自分の経験やそのときの考え方・感じ方と照らし合わせながら、さらに考えを深められるような発問を行う必要がある。そうすることで、子どもたちは、道徳的価値の理解と同時に自己理解を深めることにつながり、道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるようになってくる。

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 場面絵や掲示物の工夫、効果音や大型スクリーンの利用を通して、場面状況を把握しやすくなった。
- 道徳ノートやワークシートに自分の考えを書かせる活動を取り入れることにより、発表の意欲を高めたり、自分の考えを明らかにしたり、まとめたりするのにも効果的であった。また、全体での話し合いの前に、ペアやグループでの話し合いを取り入れることで、多様な感じ方や考え方が引き出され、話し合いにも深まりが見られる場面が多くなった。
- 役割演技を取り入れ、主人公の感じ方を実感したり、思いを共有したりすることで、ねらいとする価値への理解を深めることができた。
- 中心発問から授業をつくることで、ねらいとする価値をより意識し、授業内で高めたい価値へどのようにせまっていくのかを検討することができた。
- 「主人公〇〇さんになって、気持ちをふきだしに書こう。」などのように、気持ちや行動を人物になりきらせて考える内側発問と、「主人公〇〇さんはどうすべきか。」などのように、人物を対象化して考えさせる外側発問とを取り入れることにより、ねらいとする価値への理解を多面的・多角的に深めることができた。

(2) 今後の課題

- 指導者が児童の意識を予想しながら、より価値にせまるための補助発問を事前にしっかり考えておく。
- 表面的な理解に終わらずに、価値理解とともに人間理解をより深めさせていく。
- 中心発問に至るまでの流れを簡略化して分かりやすくし、児童がより深く思考できる時間を十分に確保できるようにする。
- 多様な感じ方や考え方を引き出していくために「自由な思考を促す発問」を考えていくことや、児童相互の考えを深めていくために効果的な話し合いができる場や方法を工夫していくようにする。